

1. コンプライアンス推進の取組み状況について

(1) 島根原子力発電所点検不備に対する取組み状況

■再発防止対策の主な実施状況

前回委員会報告以降における再発防止対策の主な取組み状況は次のとおり。
なお、全体の実施状況は別紙のとおり。

a. 不適合管理プロセスの改善

2019年2～4月の不適合判定検討会において、685件の不具合情報を審議し、このうち171件を不適合とした。

Aグレードは発生しておらず、Bグレードは3件（うち1件は2017年度のCグレードをBグレードに変更した案件）発生した。

b. 原子力部門の業務運営の仕組み強化

- ・原子力部門戦略会議を定例的に開催し、点検不備問題に係る再発防止対策について進捗状況やその運用状況等を確認するとともに、有効性評価について審議した。
- ・「管理者責務に関する研修」の有効性評価と2019年度実施計画について確認した。
- ・原子力安全維持・向上活動、および検査制度見直しに係る検討状況等について確認した。

c. 原子力安全文化醸成活動の推進

(a) 職場話し合い研修

島根原子力本部、発電所および原子力人材育成センターの副長ラインごとに、話し合い研修を実施中。（4～6月）

〔話し合いテーマ〕

株式会社スバルの出荷前検査における燃費・排ガスの検査データ改ざん
〔実施内容〕

自分達の職場で「同様な問題は（発生するおそれは）ないか」振り返り、その結果を踏まえ、社会からの要求水準が高い「原子力事業に従事する者として、自分たちはどう取り組むべきか」について話し合い。

(b) グループ行動基準の策定およびコンプライアンス行動基準の振り返り

島根原子力本部、発電所および原子力人材育成センターの副長ラインごとに、2018年度に策定したグループ行動基準について、決めたとおりに行動できたか振り返りを行うとともに、2019年度のグループ行動基準を策定した。（4～5月）

コンプライアンスに係る行動基準についても、決めたとおりに行動できたか、島根原子力本部、発電所および原子力人材育成センターの課または副長ラインごとで振り返りを実施中。（4～6月）

(c) 役員と発電所員との意見交換会の開催

日程	出席者	テーマ
6/3	・松井顧問 ・発電所員 (部長以上 10 名)	・フリーディスカッション

(d) お客さま視点の価値観を認識する機会拡大

個々の業務の重要性や地域との関わりについて認識を向上させるため、地元行事や社会貢献活動等への参加を継続実施中。

(e) 原子力安全文化の日の行事（6月3日）

原子力安全文化の大切さを共有し、安全意識と行動について社員自らあるいは相互に確認することを目的として、「原子力安全文化の日」行事を実施した。

- ・全社行事：全社員に対し、社長メッセージを発信するとともに、「原子力安全文化の日」の制定目的や点検不備問題の概要を再周知した。
- ・発電所行事：島根原子力発電所において、社長、関係役員、グループ会社、協力会社、発電所に勤務する全社員が参加して、社長訓話、「誓いの言葉」の唱和、「誓いの鐘」の鐘鳴等を実施した。

(2) コンプライアンス推進施策の主な実施内容

a. 2018年度における内部統制システムの体制整備・運用状況（2～4月）

内部統制基本方針に基づき、2018年度の各事業本部・部門等の体制整備・運用状況および期中に発生した不適切事案の内容と改善状況等を確認した。

また、内部監査部門（考査部門等）からは定例考査等を踏まえ、内部統制上の重大な問題を窺わせる事案がないとの評価を得た。

b. 個人情報保護研修（4月）

適切な個人情報の取扱いを行うことを目的に年1回、社員教育を実施することとしていることから、今年度も昨年度に引き続きeラーニング「事例で学ぶ個人情報保護」（4択形式の設問25問の理解度確認テスト）による受講を開始した（10月までに全社員が完了予定）。

c. 階層別コンプライアンス研修（新入社員向け）（4月）

当社におけるコンプライアンスの定義やコンプライアンス経営推進宣言の「3つの行動」について解説するとともに、過去に発生した不適切事案（土用ダム問題、島根原子力発電所点検不備問題、LLW流量計不適切事案）をもとにコンプライアンス最優先の重要性について説明した。

また、他企業において従業員の不適切動画の投稿等が社会問題となっていることからSNSの利用時の留意点等について事例を用いながら確認した。

d. 所属長による業務点検（5～6月）

不適切な事案の未然防止または早期発見に向けて、自職場にある問題点や弱点を早期に把握し、業務の改善や見直しを図るため、全所属長が、全社共通項目（「所属長の意識面（心構え）に関する項目」、「所属長が現物確認等により点検する項目」）および事業本部等の独自項目をチェックリストとして点検を実施中。

e. グループ会社の管理・指導

(a) グループ会社の内部統制システムの体制整備・運用状況（2～4月）

各社が取締役会で決議した内部統制基本方針に基づき、2018年度の体制整備・運用状況について取締役会に報告されていることを確認した。

(b) グループ会社へのコンプライアンス研修（4月）

課題のあるグループ会社から役員・幹部社員向けコンプライアンス研修について当社からの研修講師の派遣要請があったことから、グループ内部統制の重要性やコンプライアンスの必要性等について研修を実施した。

(c) グループ会社との意見交換（5月）

昨年度に引き続き、コンプライアンス面で課題のあるグループ会社と意見交換を実施した。

2. 内部通報制度の運用状況について

2019年2月から4月の間に、相談窓口に11件の通報・相談が寄せられた。いずれの事案についても必要に応じて事実調査等を行い、顕名による通報・相談者には結果を連絡するなど対応した。

社内・社外別 通報・相談件数 (件)

	2月	3月	4月	計
社内窓口	3(1)	3(1)	4(0)	10(2)
社外窓口	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)
計	4(1)	3(1)	4(0)	11(2)

() はグループ会社に関する受付件数を再掲

顕名・匿名別 通報・相談件数 (件)

	2月	3月	4月	計
顕名	2(1)	2(1)	4(0)	8(2)
匿名	2(0)	1(0)	0(0)	3(0)
計	4(1)	3(1)	4(0)	11(2)

() はグループ会社に関する受付件数を再掲

(注) 前回委員会報告以降に進捗した箇所を網掛けで表示。

島根原子力発電所点検不備に係る再発防止対策の主な取組み状況

直接的な原因に対する再発防止対策

- 点検計画表不備への対応**
点検計画表の修正 (2010年6月末完了)
- 業務手順の改善・明確化, 手順書の見直し**
直接原因に係る再発防止対策 (2010年7月末完了)
点検計画の作成・変更, 工事仕様書の作成手順の見直し等, 点検不備に至った業務手順の改善・明確化を実施。

その他の取組み

点検計画表の継続的見直し
点検計画表における点検方法, 点検頻度等について, 機器の安全重要度, 劣化要因を考慮して, より妥当性の高い内容に継続的に見直し

- ◇ 点検計画表における点検方法, 点検頻度等の継続的見直しを検討するワーキンググループを結成し, 活動中。

保守管理活動全体を管理する「統合型保全システム(EAM)」の活用

- ・ 現在開発中のEAMにより, 紙ベースで管理している膨大なデータをシステムで管理
- ・ 「原子力強化プロジェクト」は, 発電所と連携して業務プロセスの改善による更なる業務処理の正確性および効率性向上を検討, 実施

- ◇ 2号機の点検計画表データをEAM保守管理データとして整備し, 第17回定期検査(2012/1開始)に向けて, 2011/12に本運用を開始。
- ◇ 1号機についても, 点検計画表データをEAM保守管理データとして整備し, 2012/10より運用開始。

点検時期を超過していた機器の健全性評価

- ◇ 2号機162機器の全てについて健全性の確認を終了(2010.7.27)
- ◇ 1号機349機器の全てについて健全性の確認を終了(2011.1.6)

根本的な原因に対する再発防止対策

根本的な原因

不適合管理
不適合管理を適切, 確実に
行うための仕組みが不足していた。

マネジメント
規制要求事項の変更に
速やかに対応してマネジメント
できる仕組みが十分で
なく適切な対応ができ
なかった。

組織・風土
「報告する文化」「常に
問いかける姿勢」が組織
として不足していた。

原子力品質マネジメントシステムの充実

不適合管理プロセスの改善
■ 不適合管理が適切に行われ, 不適合の判断が限られた箇所決定されること等がないよう, 不適合管理プロセスを改善する。

- 不適合管理を専任で行う担当を設置 (2010.6.29)
＜活動状況＞ 発電所員に対し, 不適合管理の必要性や基準についての教育を実施 (2010.7.29~8.2) ・品質保証講演会 (2010.9.16), 不適合判定検討会委員への専門教育 (2010.10.14)
- すべての不具合情報について検討し処置を決定する「不適合判定検討会」の運用を開始 (2010.8.1)
＜活動状況＞ 不適合と判定した事象全てを半月毎に当社ホームページ上で公開 (2010.9.7開始)

原子力部門の業務運営の仕組み強化 (保守管理体制・品質保証体制の再構築)
■ 規制要求の変化に速やかに対応し, 適切にマネジメントできる仕組みを強化する。

- 原子力部門の重要課題を統括する「原子力部門戦略会議」を設置 (2010.7.27)
＜活動状況＞ 第1回開催 (2010.7.27) ~ 第118回開催 (2019.4.16)
- 本社, 発電所からなる「原子力安全情報検討会」を設置 (H22.7.30)
＜活動状況＞ 第1回開催 (2010.8.13) ~ 第97回開催 (2019.3.26)
- 発電所の統括機能を強化し, 責任体制を明確化するため, 品質保証部・保修部を設置 (2010.9.7), 技術部・発電部を設置 (2011.3.1)。

原子力安全文化醸成活動の推進

■ 経営における原子力の重要性や地域社会の視点からの安全文化の大切さを全社 (関係会社・協力会社を含む) で醸成する活動を推進する。

- 社長直属の組織として「原子力強化プロジェクト」を設置 (2010.6.29)
・ 職場話し合い研修: 2010年度3回。2011~2013年度年間2回。2014年度以降年間1回。2019年度は現在実施中 (4~6月)。グループ行動基準も策定。
- ・ 役員と発電所・建設所員との意見交換会を実施: 2010年度8回。2011~2017年度年間6回 (2013年度7回)。2018年度年間8回。2019年度は6.3に実施。
- ・ 原子力安全文化醸成研修会を開催: 2010年度3回。2011~2013年度年間2回。2014~2015年度年間1回。2016~2017年度2回。2018年度年間1回。
- ・ 福島支援派遣者座談会を実施し, 社内報に掲載 (2011年度)。
- ・ 原子力部門関係者の情報交換の場となる社内SNSを活用 (2010.12~2014.12)。
- 社外有識者を中心に構成する「原子力安全文化有識者会議」を設置し開催: 2010年度4回。2011年度以降年間2回 (2015年度は臨時開催を含み3回)。
- 地元の方々との対話活動の充実
鹿島町・島根町・橋北地区全戸訪問 (2010年度), 技術系社員による見学会対応 (2010.7~), 定例訪問へ参加 (2010.7~), 地元行事へ参加 (2010.9~), 地元意見の職場内共有 (2010.9~)
- 原子力の重要性や安全文化の大切さを全社で確認する「原子力安全文化の日」を制定 (2010.6.3) 2011年度から毎年6月に行事実施。2019年度は6.3に発電所で社長訓話, 「誓いの言葉」唱和等を実施するとともに, 全社に対し社長メッセージを発信。
- コンプライアンス強調月間行事として, 点検不備問題に関する風化防止ビデオの視聴など再発防止に向けた取組みを毎年11月に実施。(2010年度~2014年度※)
※...2015年度以降はLLW流量計不適切事案の再発防止対策に関する取組みに見直し